

株式会社モリタ 2024 年度歯科健診結果報告

2025 年 6 月 17 日

報告者 4 階歯科診療所 歯科医師 前田 憲一郎
歯科衛生士 木村 眞依子 大畑 有紀

1. はじめに

2021 年度より、う蝕や歯周疾患の見落とし防止、および健診者への説明の分かりやすさ向上を目的として、診療室のレントゲン撮影機を活用したパノラマレントゲン撮影を実施している。

2. 全体報告

2.1. 健診対象者 男性 84 名、女性 66 名、合計 150 名

2024年度															
受診総数	150														
男性	84														
女性	66														
年齢		男性	女性												
20代	14	7	7												
30代	28	17	11												
40代	47	20	27												
50代	48	27	21												
60代	13	13	0												
	150	84	66												

	人数	平均年齢	喫煙者数	%	かかりつけ歯科あり	%	う蝕本数	1人平均	平均処置歯数	平均残存歯数	う蝕のある人	%	処置歯の無い人	%
全体	150	45.8	22	14.7	112	74.7	48	0.32	9	27.8	32	21.3	15	10.0
男性	84	47.0	20	23.8	53	63.1	34	0.40	8.9	27.8	22	26.2	8	9.5
女性	66	44.1	2	3.0	57	86.4	14	0.21	9.2	27.8	10	15.2	7	10.6

(%)	人数	平均年齢	ブラッシング回数			補助清掃道具使用					ブラッシング時の出血	つまる	口臭	はざしり	顎関節
			3回以上	2回	1回	使用	歯間ブラシ	フロス	両方	不使用					
全体	150	45.8	79 (52.7)	63 (42.0)	8 (5.3)	126 (84.0)	61 (40.7)	94 (62.6)	32 (21.3)	22 (14.7)	35 (23.3)	124 (82.7)	52 (34.7)	66 (44.0)	50 (33.3)
男性	84	47.0	32 (38.1)	45 (53.6)	7 (8.3)	65 (77.4)	37 (44.0)	44 (52.4)	16 (19.0)	17 (11.3)	27 (32.1)	68 (81.0)	32 (25.0)	33 (39.3)	15 (17.9)
女性	66	44.1	47 (71.2)	18 (27.3)	1 (1.5)	61 (92.4)	24 (36.4)	50 (75.8)	16 (24.2)	5 (7.6)	14 (21.2)	58 (87.9)	20 (30.3)	33 (50.0)	25 (37.9)

2.2. 受診者の状況

本年度は男性 84 名、女性 66 名が受診。平均年齢は男性 45.8 歳、女性 44.1 歳。

- かかりつけ歯科医院での定期チェック受診率:モリタ社員におけるかかりつけ歯科医院での定期チェック受診率は全体で 74.7%であり、日本の職場や自治体の平均歯科健診受診率 48.6%(2024 年日本歯科医師会 歯科医療に関する生活者意識調査*)を大きく上回った。男性は 65.9%、女性は 84.0%であった。

- ・ **う蝕本数:**1 人平均のう蝕本数は男性が 0.40 本、女性が 0.21 本。
- ・ **う蝕のある人の割合:**全体で 32 名 (21.3%)にう蝕が認められた。男性では 22 名 (26.2%)、女性では 10 名 (15.2%)であった。
- ・ **処置歯のない人の割合:**全体で 15 名 (10.0%)に処置歯を認めなかった。男性が 7 名 (9.5%)、女性が 5 名 (10.6%)で、同年代 (20 代～60 代)の日本平均 4.4%(令和 4 年歯科疾患実態調査*2)を上回った。
- ・ **喫煙率:**女性の喫煙率は 3.0%で、全国平均 (6.9%(2023 年「国民健康・栄養調査」))を大きく下回った。男性は 23.8%で、今回初めて全国平均 (25.6%(2023 年「国民健康・栄養調査」*3))を下回った。

3. 年代別報告

3.1. 喫煙率

モリタ社員 年代別男性喫煙率

		モリタ		日本平均*2
男性		喫煙者数	%	%
20代	7	2	28.6	20.6
30代	17	2	11.8	29.9
40代	20	4	20.0	33.4
50代	27	9	33.3	31.5
60代	13	3	23.1	28.5

モリタ社員 年代別女性喫煙率

		モリタ		日本平均*2
女性		喫煙者数	%	%
20代	7	0	0.0	5.2
30代	11	1	9.1	8.7
40代	27	0	0.0	10.1
50代	21	1	4.8	11.7

モリタ社員の喫煙率は、男性の 20 代と 50 代で日本人平均より高かった。

3.2. 1 人平均現在歯数

1人平均歯数						
	モリタ社員			日本平均 ^{*2}		
年齢	全体	男	女	全体	男	女
20～24	26.0	26.0				
25～29	27.9	28.5	27.4			
30～34	27.9	27.9	28.0			
35～39	27.9	28.0	27.5			
40～44	28.1	28.0	28.3	27.9	28.4	27.6
45～49	27.8	28.1	27.6	27.8	27.8	27.7
50～54	28.2	28.6	27.7	26.4	25.8	26.9
55～59	27.1	26.7	27.7	26.5	26.8	26.2
60～64	27.2	27.2	-	24.8	23.5	25.9
65～69	26.5	26.5	-	23.8	23.7	23.9

モリタ社員の1人平均現在歯数は50代後半男性で平均をわずかに下回ったものの、それ以外の年代では上回った。

3.3. 処置歯のない者の割合

処置歯の無い者の割合(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20～24	0.0	28.8
25～29	38.4	15.8
30～34	21.4	8.0
35～39	7.1	7.2
40～44	11.8	2.6
45～49	0.0	0.7
50～54	8.0	1.3
55～59	0.0	0.7
60～64	0.0	1.7
65～70	0.0	0.9

処置歯のない者の割合は25～29歳、30～34歳、40～44歳、50～44歳の年代で全国平均を大きく上回った。

3.4. 未処置のう蝕を有する者の割合

未処置のう蝕を有する者の割合(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ²
20~24	0.0	30.8
25~29	15.4	28.9
30~34	14.3	48.0
35~39	0.0	26.5
40~44	23.5	28.5
45~49	20.0	27.6
50~54	24.0	32.9
55~59	30.4	32.1
60~64	33.3	21.5
65~70	25.0	30.5

60～69 歳の層で未処置のう蝕を有する者の割合が日本平均を上回った。それ以外の年代層では平均を下回った。

3.5. DMF 歯数

DMF歯数		
年齢	モリタ社員	日本平均 ²
~24	8.0	2.5
25~34	5.4	6.6
35~44	7.7	9.7
45~54	14.1	13.4
55~64	14.3	15.8
65~74	13.5	15.8

DMF 歯数は 24 歳以下と 45～54 歳で平均を上回ったが、それ以外の年代では日本平均を下回った。

3.6. 喪失歯所有率

喪失歯所有者率(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20～24	100.0	2.9
25～29	15.4	8.1
30～34	28.6	11.5
35～39	14.3	20.5
40～44	11.8	31.1
45～49	26.7	41.1
50～54	32.0	61.5
55～59	43.5	72.8
60～64	66.7	79.2
65～70	100.0	81.5

喪失歯所有率は 20～24 歳、25～29 歳、65～70 歳以外で平均より良好な数値であった。

3.7. 1 人平均喪失歯数

1人平均喪失歯数		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20～24	2.0	0.3
25～34	0.6	0.4
35～44	0.2	0.6
45～54	0.7	1.4
55～64	1.4	3.0
65～74	1.8	6.0

1 人平均喪失歯数は 20～24 歳、25～34 歳以外で平均を下回っていた。

3.8. 各補綴物の装着者の割合(%)

各補綴物の装着者の割合 (%)								
年齢	モリタ				日本平均 ^{*2}			
	総数	ブリッジ	義歯	インプラント	総数	ブリッジ	義歯	インプラント
20～24	0	0	0	0	0	0	0	0
25～29	0	0	0	0	2.6	0	0	2.6
30～34	0	0	0	0	6.7	6.7	0	1.3
35～39	14.3	7.1	0	7.1	6.0	4.8	1.2	0
40～44	17.6	5.9	0	11.8	11.2	10.3	0.9	0
45～49	10.0	10.0	0	0	14.5	13.1	1.4	0.7
50～54	16.0	12.0	4.0	0	31.0	24.5	5.8	3.2
55～59	30.4	8.7	21.7	0	40.1	31.4	9.5	2.9
60～64	55.5	22.2	22.2	11.1	51.4	40.1	18.1	4.5
65～70	50.0	50.0	0	0	53.6	41.4	22.3	3.6

欠損補綴物の装着の割合は 45～49 歳、50～54 歳、55～59 歳の年代において下回った。ブリッジの装着割合は平均よりも少なく、インプラント補綴の割合が多かった一方で、55～59 歳、60～64 歳での義歯装着割合は日本平均を上回った。

3.9.1 現在歯の状況(8020 達成者等)

20 本以上の歯を有する者(8020 達成者の割合)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
45～49	100	97.9
50～54	100	95.5
55～59	95.7	94.9
60～64	100	89.3
65～69	100	81.4

全ての年代において 20 本以上歯のある者の割合は平均を上回った。1 人あたりの現在歯数は全年代で平均かそれ以上であった。

3.9.2 1 人平均現在歯数

現在歯数		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20～24	28.0	
25～29	27.9	
30～34	27.9	
35～39	27.9	
40～44	28.1	27.9
45～49	27.8	27.8
50～54	28.2	26.4
55～59	27.2	26.5
60～64	27.9	24.8
65～69	26.5	23.8

1 人あたり現在歯数は全年代で平均かそれ以上であった。

3.10. 歯周ポケットの状況

歯周ポケットを有する者の割合 (%)						
	モリタ			日本平均 ^{*2}		
年齢	総数	4mm以上6mm未満	6mm以上	総数	4mm以上6mm未満	6mm以上
20～24	100	0	100	21.2	19.2	1.9
25～29	69.2	61.5	7.7	31.6	28.9	2.6
30～34	71.4	57.1	14.3	33.3	29.3	4.0
35～39	71.4	71.4	0	33.7	31.3	2.4
40～44	76.5	70.6	5.9	35.3	31.0	4.3
45～49	66.7	53.3	13.3	43.4	36.6	6.9
50～54	80.0	68.0	12.0	43.9	37.4	6.5
55～59	70.0	56.5	13.0	49.6	38.7	10.9
60～64	88.9	66.7	22.2	45.8	30.5	15.3
65～70	25.0	25.0	0	55.9	42.3	13.6

モリタ社員はどの年齢層においても 4mm 以上のポケットを有する者の割合が高く、また 6mm 以上の深いポケットを有する者の割合も高かった。

3.11. 歯肉出血を有する者の割合

歯肉出血を有する者の割合 (%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 ^{*2}
20～24	100	42.3
25～29	23.0	47.4
30～34	7.1	50.7
35～39	14.3	37.3
40～44	11.8	51.7
45～49	13.3	51.7
50～54	32.0	45.2
55～59	21.7	51.1
60～64	44.4	39.0
65～70	0.0	45.0

モリタ社員は歯肉出血を有する者の割合が 60～64 歳以外において平均を下回った。

3.12. 1 日のブラッシング回数

ブラッシング回数/1日						
(%)		0 回	1 回	2 回	3 回	2 回以上
モリタ社員全体		0	5.3	42.0	52.7	94.7
モリタ社員男性		0	8.3	53.6	38.1	91.7
モリタ社員女性		0	1.5	27.3	71.2	98.5
日本平均		0.5	18.2	50.8	28.4	79.2

モリタ社員のブラッシング時間

ブラッシング時間	1分	2分	3分	5分	10分	15分	20分以上	無回答
	1	8	32	52	22	6	3	26

モリタ社員は男性、女性ともに2回以上ブラッシングをしている者の割合が日本平均を上回った。特に女性社員は3回以上ブラッシングをしている者の割合が98.5%であった。モリタ社員の大部分がブラッシング時間を3分以上とっていた。

3.13. 清掃補助具使用率

補助器具使用率				
	モリタ社員		日本平均 ^{*2}	
年齢	男	女	男	女
20~24	0.0	—	17.2	47.1
25~29	83.3	100	58.8	42.9
30~34	75.0	100	31.9	47.9
35~39	77.8	100	40.8	64.6
40~44	88.9	87.5	44.8	62.5
45~49	72.7	94.7	51.9	68.0
50~54	86.7	80.0	49.4	69.8
55~59	83.3	81.8	48.4	76.8
60~64	77.8	—	41.5	74.5
65~69	75.0	—	45.0	66.4

清掃補助器具（デンタルフロスまたは歯間ブラシ）の使用率は、男女ともどの年代においても日本平均を大きく上回っていた。

4. 唾液検査結果報告

	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
ライオン平均	37	43	36	49	43	53
全体	34.7	58.6	24.2	67.0	56.9	38.2
男性	39.8	56.0	26.9	72.3	58.9	38.6
女性	28.0	61.8	20.7	60.2	54.2	37.6

う蝕へのリスクは酸性度が高く緩衝能は高い傾向が見られた。女性では虫歯菌の数値が低かった。歯肉の炎症度合いを示す白血球とタンパク質の値は男女ともに高く、アンモニアの値は低かった。

4.1. 年代別唾液検査報告

	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
ライオン平均	37	43	36	49	43	53
20代男性	34.4	43.1	15.9	54.4	36.9	30.4
20代女性	28.1	71.3	20.3	55.3	55.1	46.7
30代男性	31.4	43.8	27.9	79.6	55.4	29.0
30代女性	25.4	64.6	10.9	55.0	44.0	24.2
40代男性	40.0	57.4	27.5	69.1	57.2	43.1
40代女性	24.7	65.0	21.6	60.2	54.2	35.9
50代男性	46.0	64.0	25.9	70.7	65.2	40.9
50代女性	34.9	56.2	25.8	67.5	61.9	45.5
60代男性	40.8	60.5	32.9	80.5	65.2	43.9

虫歯菌は 20 代から 40 代の女性の数値が低かった。酸性度は女性が全体的に高く、男性も 40 代以上で数値が高かった。緩衝能は全体的に高い数値を示した。白血球は 30 代以上の男性で数値が高かった。タンパク質は 50 代以上で数値が高かった。アンモニアは全体的に平均を下回っていた。

5. かかりつけ歯科医院を持つ者とそうでない者の解析

						ポケット				
						～3mm	4～6mm	6mm～	4mm以上の歯数	出血
かかりつけ歯科医院	現在歯数	欠損歯数	処置歯数	未処置のう蝕						
あり	27.9	0.6	8.9	0.6		33.9%	57.1%	8.9%	5.9	14.3%
なし	27.4	1.1	9.4	0.2		10.5%	71.1%	18.4%	9.2	31.6%

唾液検査にて解析

かかりつけ歯科医院	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
あり	33.3	58.7	23.2	64.1	54.3	37.6
なし	38.8	58.2	27.1	75.5	64.3	39.9

現在歯数、欠損歯数、処置歯数、未処置のう蝕の数はいずれも、かかりつけ歯科医院のある者の方が良好な数値であった。また、歯周ポケットの深さ、深いポケットの歯数、歯茎からの出血も、かかりつけ歯科医院のある者の方が優れた数値であった。唾液検査では、かかりつけ歯科医院のある方が歯肉の炎症の数値を示す白血球とタンパク質の数値が低い値を示した。

6. 喫煙者と非喫煙者間の解析

						ポケット				
喫煙	現在歯数	欠損歯数	処置歯数	未処置のう蝕		～3mm	4～6mm	6mm～	4mm以上の歯数	出血
あり	27	1.2	8.3	0.4		14.3%	64.3%	21.4%	12.4	32.1%
なし	27.9	0.6	9.2	0.3		30.0%	61.7%	8.6%	5.7	19.5%

喫煙	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
あり	44.1	57.3	27.1	68.7	52.4	36.0
なし	33.0	58.8	23.7	66.7	57.6	38.5

喫煙者では欠損歯数が多く、また歯周ポケットの深さ、4mm 以上のポケットの歯数、歯茎からの出血のいずれも数値が非喫煙者よりも悪化していた。唾液検査では喫煙者で虫歯菌の数値が悪い数値を示した。

7. 口腔軟組織健診

口腔がんの疑いのあるものは認められなかった。

8. その他(生活習慣などに関するもの)

歯科健診の頻度

健診頻度	1～3ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月	なし
	3	32	44	32	39
%	2.0%	21.3%	29.3%	21.3%	26.0%

使用している歯磨剤(複数回答可)

歯磨剤	チェックアップ	プリリアント	ハグキプラス	システマ	SPT	その他
	45	13	8	8	7	9

食事頻度

食事頻度	1回	朝夕2回	昼夕2回	朝昼夕3回	間食
	0	3	22	125	45
決まった時間	0	0	10	99	

よく口にするもの

よく口にするもの			
コーヒー	チョコレート	お茶	紅茶
103	19	33	6

運動頻度

運動頻度					
毎日	週3~4回	週1~2回	月1~2回	しない	無回答
10	9	48	19	55	1

- **歯科健診の頻度**: 歯科健診の頻度は半年に1回が最も多かった。
- **使用している歯磨剤(複数回答可)**: 「チェックアップ」の使用率が高く、次いで「ブリリアント」の使用が多く認められた。
- **食事頻度**: 1日3回、決まった時間に食事をとる人が多かった。
- **よく口にするもの**: コーヒーとお茶を摂取する人が多かった。
- **運動頻度**: 週1~2回が多く、また全くしない者も多かった。

10. 考察

10.1. 全体的な口腔内状況 モリタ社員の口腔内状況は非常に良好であると考えられる。現在歯数はほぼ28本であり、喪失歯数は日本平均より少ない。ブリッジなどの欠損補綴を装着している者も少ない一方、歯の欠損があれば放置せずに補綴処置を受けていることが伺える。DMF歯数は日本平均と変わらないものの、未処置のう蝕を持つ者の割合が低いことから、今回の歯科健診およびかかりつけ歯科医での健診により、早期発見・早期治療に繋がっていると考えられる。口腔健康への意識も高く、ブラッシング回数と歯間ブラシやデンタルフロスの使用率が国民平均を大きく上回っており、またかかりつけ歯科医を持つ割合が一般よりも高い。処置歯のない者が高年齢でも見られることも、この口腔健康への意識の高さを示しているものと思われる。またかかりつけ歯科医院を持つものの方が多くの数値でそうでないものより良い数値を出しているため、さらなる歯科医院の受診の促進が望まれる。

10.2. 歯周組織の課題と改善点 一方で歯周組織においては、歯周ポケットの深さ、歯肉からの出血は国民平均より悪い数値が見られた。ポケットの深さに関しては、当診療室では全部位を精密に計測しているため、一般的な健康調査よりも精密な結果が出ている可能性も考えられる。しかし、歯肉からの出血や唾液検査での歯肉の炎

症の数値が悪いことから、健診だけでなく、歯科医院の受診や在籍する歯科衛生士によるスケーリングや口腔衛生指導なども検討する余地があると考えられる。

10.3. 喫煙率と今後の課題 喫煙率は初めて男性が国民平均以下となった。健康に携わる会社としてはさらなる改善が望まれる。喫煙は歯周病のリスクファクターとされているが、今回の健診においても喫煙者では歯周病の数値が非喫煙者よりも明らかに悪かった。喫煙はストレス解消の一面もあると考えられるため、この効果を配慮しつつも代替の方法を提案し、禁煙援助を行っていくことが望ましいと考える。

10.4. 経年変化からの考察 受診者の増加、かかりつけ歯科医院を持つ人の割合が多く年代層で過去最高となったことは、意識改善が進んでいると考えられる。唾液検査でもいくつかの項目で改善が認められた。喫煙率は緩やかなペースで減少が見られているため、前述の考察で提案したように、さらなる改善が望まれる。

11. 経年変化

11.1 対象者

2021年度			2022年度			2023年度			2024年度		
受診総数	166		受診総数	181		受診総数	159		受診総数	150	
男性	103		男性	107		男性	82		男性	84	
女性	63		女性	74		女性	75		女性	66	
年齢分布			年齢分布			年齢分布			年齢分布		
20歳代	15		20歳代	19		20歳代	19		20歳代	14	
30歳代	58		30歳代	37		30歳代	28		30歳代	28	
40歳代	69		40歳代	60		40歳代	47		40歳代	47	
50歳代	52		50歳代	52		50歳代	52		50歳代	48	
60歳代	22		60歳代	12		60歳代	11		60歳代	13	
	259			181			157			150	
年齢分布			年齢分布			年齢分布			年齢分布		
2021	男性	女性	2021	男性	女性	2021	男性	女性	2021	男性	女性
20歳代	8	7	20歳代	10	9	20歳代	7	12	20歳代	7	7
30歳代	18	12	30歳代	22	15	30歳代	15	13	30歳代	17	11
40歳代	26	35	40歳代	27	33	40歳代	19	28	40歳代	20	27
50歳代	40	9	50歳代	38	14	50歳代	31	21	50歳代	27	21
60歳代	11	0	60歳代	10	2	60歳代	10	1	60歳代	13	0
	103	63		107	73		82	75		84	66

- 今年度の受診者は前年度よりやや減少した。

11.2 かかりつけ歯科医を持つ年代別割合

年代ごとのかかりつけ歯科医%								
	2021		2022		2023		2024	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
20歳代	38%	50%	70%	89%	71%	83%	86%	86%
30歳代	50%	67%	64%	87%	73%	76%	71%	91%
40歳代	42%	60%	67%	70%	63%	85%	70%	89%
50歳代	43%	45%	45%	79%	58%	85%	52%	81%
60歳代	45%		70%	50%	80%	100%	62%	

- 2024 年度は各年代においてかかりつけ歯科医を持つ割合が増加し、20 代男性と 30 代女性で割合が増加した。一方、60 代男性では低下した。

11.3 う蝕

	2021	2022	2023	2024
1 人あたりう蝕の数	0.46	0.48	0.35	0.32

- 1 人あたりのう蝕の数は 2024 年度において減少した。

11.4 喫煙率

喫煙率	2019	2021	2022	2023	2024
全体	23%	18%	19%	17%	15%
男性	35%	27%	30%	29%	24%
女性	5%	7%	3%	3%	3%

喫煙率は男性では過去最低となった。

11.6 唾液検査:

	人数	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
	ライオン平均	37	43	36	49	43	53
全体2024	150	35	59	24	67	57	38
全体2023	157	31	77	19	68	52	44
全体2022	180	32	61	26	68	54	43
全体2021	166	36	57	29	67	56	46
全体2020	188	26	52	31	67	54	39
男性2024	84	40	56	27	72	59	39
男性2023	82	33	74	23	73	56	47
男性2022	107	35	63	28	72	57	45
男性2021	103	44	60	32	90	74	45
男性2020	117	28	51	34	70	57	42
女性2024	66	28	62	21	60	54	38
女性2023	75	30	80	15	62	47	41
女性2022	73	27	59	23	62	50	41
女性2021	63	31	59	28	58	45	51
女性2020	71	23	55	25	64	51	35

※赤字は前年より悪化、青字は改善

- 唾液検査の前年との比較では、男性において虫歯菌の数値が悪化したが、酸性度、アンモニアの数値の改善が認められた。
- 女性ではタンパク質の数値の悪化が認められたが、酸性度の数値は改善が認められた。
- 全体では酸性度とアンモニアの数値が改善し、タンパク質の数値が悪化した。

11.7 経年変化からの考察

受診者の増加、かかりつけ歯科医院を持つ人の割合が多くの年代層で過去最高となったことは、意識改善が進んでいると考えられる。唾液検査でもいくつかの項目で改善が認められた。喫煙率は緩やかなペースで減少が見られているため、前述の考察で提案したように、さらなる改善が望まれる。

12. まとめ

現在、国民皆歯科健診が予定されている中、以前より社内で歯科健診を実施していることは大変先見の明がある。定期的に歯科医院へ受診する者も昨年度より増加し、口の健康への意識が上がっていると感じられる。また今年度も健診で昨年発見された治療が必要なう蝕や親知らずの抜歯を行った方、歯周病治療を開始された方もおられ、健診従事者としては大変嬉しく感じている。今後は現在受診が難しい社員の方も何らかの方法で健診ができれば、さらにモリタ社員の健康増進に寄与できると考えている。また、昨年より再開した新入社員への健診も、本人への意識づけや自身の口腔内を知ることは、モリタで働く上で大変重要であると思われる。

2025 年から国民歯科健診の義務化が検討されている中、歯科業界を牽引するモリタはこれに先立ち、社員の健診実施率を現在以上に上げていくことが望ましいと考える。当歯科診療室もこの点に大きく貢献したいと考えている。木村、大畑両衛生士が適切に業務を行ってくれたおかげで、順調に健診を行うことができた。両名には心より感謝申し上げる。

歯科健診を行うことのモリタにとってのメリット

モリタが社員に社内歯科健診を受けさせることには、多岐にわたるメリットがあると考えられる。

① 社員の健康増進と生産性向上

* 早期発見・早期治療による重症化予防

社内で定期的に健診を受けることで、虫歯や歯周病などの口腔疾患を早期に発見し、治療につなげることができる。これにより、症状の悪化を防ぎ、社員が健康な状態で業務に集中できるようになる。

* 集中力と意欲の維持

歯の痛みや不快感は、仕事への集中力を低下させ、ストレスの原因にもなる。口腔内の健康が維持されることで、社員は快適な状態で業務に取り組むことができ、結果的に生産性の向上に繋がる。

* 生活習慣病の予防

歯周病は糖尿病や心臓病など、全身の病気と関連があることが指摘されている。口腔内の健康を保つことは、これらの生活習慣病の予防にも寄与し、長期的な社員の健康維持に貢献する。

② 企業イメージの向上とブランディング

* 「歯の健康」へのコミットメント

歯科メーカーとして、自社の社員の口腔健康を積極的にサポートする姿勢は、モリタが「歯の健康」に真摯に取り組んでいる企業であることを内外に示す強力なメッセージとなる。これは、企業イメージの向上に大きく貢献する。

* 先進的な健康経営の推進

社内での歯科健診の導入は、社員の健康を重視する先進的な「健康経営」の一環として評価される。これにより、企業のブランド価値を高め、社会からの信頼を得ることができる。

* 採用活動における魅力

健康経営に力を入れている企業として、社員の健康をサポートする体制は、就職活動を行う人々にとって魅力的なポイントとなり、優秀な人材の獲得にも寄与すると考えられる。

* 清潔な口腔環境は、特に口腔状態への目の厳しい顧客と接する機会の多い職種において、企業の印象を左右する重要な要素となる。

②社員のエンゲージメント向上

* 社員への福利厚生

社内で手軽に歯科健診を受けられることは、社員にとって大きな福利厚生となります。これにより、社員の会社への満足度やエンゲージメントが高まることが期待できる。

* 健康意識の向上

企業が率先して歯科健診を奨励することで、社員自身の健康意識も高まる。これは、口腔健康だけでなく、全体の健康に対する意識向上にも繋がる。

モリタが社員に社内歯科健診を受けさせることは、社員の健康増進、企業イメージの向上、そして社員のエンゲージメント向上という、多方面にわたるメリットをもたらすと考えられる。